

IS02-3 薬剤師業務の質を可視化する

○藤田 健二¹

¹シドニー大薬

高齢化の進展、医療の高度化・多様化など、医療を取り巻く環境が大きく変化している。こうした中、平成 27 年 10 月に「患者のための薬局ビジョン」が策定され、2025 年までにすべての薬局が備えるべき機能が提示された。薬局薬剤師は対物業務から対人業務へのシフトが求められているが、これは薬剤師業務の意義そのものが問われており、業務の質向上に向けた活動が今後ますます重要となることを意味している。

薬局業務に関する product-oriented practice から patient-centred practice へのシフトは、世界的な潮流となっている。Evidence based practice を通して質の高いケアを患者に提供するためには、薬剤師業務の有益性を研究によって証明し、エビデンスが得られた業務を現場で展開していく方策が必要となる。その意味において、pharmacy practice research (PPR)の重要性は今後ますます高まっていくと感じている。

PPR の 1 つとして、近年、薬局業務の質を可視化するための指標 (Quality Indicator/ QI) の開発および運用が複数の国で検討されている。QI を用いて薬局業務の質を見える化し、PDCA サイクルを回すことで、薬局の質を向上することができる。本講演では、QI の基本コンセプトを説明し、QI を用いた薬局の質評価システムの構築に着手している他国の事例を紹介した後、わが国の薬局事情に合わせた QI の開発に向けた要点を述べる。